

令和2年度 政策評価表

| | | | |
|--------------------------|---|------------|-----------|
| | | 作成日 | 令和2年8月20日 |
| リーディングプロジェクト | 所沢ブランドの推進とまちの活性化 | ゼネラルマネージャー | 産業経済部長 |
| 未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー | 経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、所沢駅西口まちづくり担当理事、教育総務部長 | | |
| 幹事会メンバー | 産業経済部次長、企画総務課長、経営企画担当参事、広報課長、地域づくり推進課長、文化芸術振興担当参事、みどり自然担当参事、産業振興課長、商業観光課長、農業振興担当参事、所沢駅西口区画整理担当参事、スポーツ振興課長、文化財保護担当参事 | | |

【リーディングプロジェクトの方向性】

本市には、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、焼だんごや手打ちうどんといった食文化、「音楽のあるまちづくり」に代表されるモダンな市民文化など、市民が誇りに思う「所沢ブランド」が数多くあります。そして、まちの活性化を図るためには、こうした他市にも誇れる本市の魅力をも十分に活かしていくことが必要です。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、東所沢に新たな文化の拠点となる「ところざわサクラタウン」が開設するとともに、西武ドーム球場周辺のボールパーク化が計画されるなど、今後、国内外から多くの観光客が本市を訪れることが見込まれています。国内はもとより、海外にまで本市の魅力伝えることができるこうした機会を捉え、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境整備といった基盤整備をはじめ、地元商店や地域における観光客受け入れに備えた取組などを推進し、観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、豊かなみどりと文化の魅力伝える「所沢ブランド」を発信します。

【令和元年度に実施した事業】

≪「主な取り組み」にあたる事業≫

| | |
|--|-------|
| 5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実） | |
| 「(仮称) 所沢市観光情報・物産館」整備事業（COOL JAPAN FOREST 構想） | 商業観光課 |
| 観光拠点の整備・充実事業 | 商業観光課 |
| 狭山丘陵の魅力の発掘・向上事業 | 商業観光課 |
| 5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（地域製品のブランド化の推進） | |
| ヘルスツーリズム産業創出支援事業 | 商業観光課 |
| 所沢ブランド特産品創出支援事業 | 産業振興課 |
| 地産地消推進事業 | 農業振興課 |

| | |
|---|---------|
| 5-3-4 観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築） | |
| 効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業 | 商業観光課 |
| 5-6-1 個性あふれる文化の創造 （市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの改修） | |
| 音楽のあるまちづくり推進事業 | 文化芸術振興課 |
| 所沢市民文化センター改修事業 | 文化芸術振興課 |

| | |
|-------------------------------|--------|
| 5-6-2 文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用） | |
| 滝の城跡整備事業 | 文化財保護課 |

《「関連する取り組み」にあたる事業》

| | |
|---|--------|
| 4-2-3 みどりと水の保全 （「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出） | |
| 水とみどりがつくるネットワーク計画策定事業 | みどり自然課 |
| 狭山湖周辺人道橋整備事業 | みどり自然課 |

| | |
|--|--------------|
| 6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業） | |
| 所沢駅西口まちづくり事業 | 所沢駅西口区画整理事務所 |

| | |
|--|-------|
| 7-4-3 地域の総合力の向上 （地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進） | |
| ダイアプラン推進事業 | 経営企画課 |
| COOL JAPAN FOREST 構想推進事業 | 経営企画課 |

【評価及び今後の方針】

| |
|--|
| 令和元年度の取り組みに対する評価 |
| <p>●にぎわい拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所沢市観光情報・物産館整備事業では、本市の観光情報の提供や特産物PR・販売等の魅力発信拠点として令和3年5月の開業を目指してしており、令和元年度はPFI手法による設計業務や、運営を担う指定管理者募集に向けたヒアリング、「ところざわサクラタウン」とつなぐブリッジの建設工事等の整備を進めた。 ・中心市街地や商店街の活性化として、野老澤町造商店と協働した事業、中心市街地にぎわい創出支援事業補助金を通じた取組及び魅力ある商店街創出支援事業補助金を通じた取組を実施した。 ・狭山丘陵観光連携事業推進協議会が実施するイベントを通じ、狭山丘陵の魅力の発掘・向上を実施した。 ・所沢駅周辺の賑わい創出を目指し、広域集客型商業施設の建設を予定している西武鉄道株式会社及び住友商事株式会社と、協働による街づくりの推進を目的とした協定を締結した。 ・所沢駅西口の回遊性の向上を目指した歩行者ネットワークの一環として、歩行者デッキの整備に着手した。 |

●街の魅力の向上

- ・「採れたて！農産物直売『とことこ市』」の開催支援や、生産者と消費者をつなげることを目的とした農業情報誌の刷新、市内外から多くの参加者が集まる「所沢シティマラソン大会」の賞品として農産物を提供するなどの取組により、市内で生産された安全安心な農産物のPR、イメージアップを図った。
- ・所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第2回認定品を13商品選定した。また、所沢ブランド特産品の特設WEBサイトを開設し、第1回認定品14商品と合わせた全27商品とその開発者及び販売店のPRを行った。
- ・「第40回所沢市民フェスティバル」を令和元年10月26日(土)・27日(日)に開催し、延べ25万人が参加した。プラスチック削減を目的に、「所沢から出る海のプラスチックごみをストップ」をテーマとした取組を行った。
- ・「第30回所沢シティマラソン大会」を、令和元年12月1日(日)にメットライフドーム周辺において開催し、4,000人を超えるランナーが出走した。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向け、ホストタウンとして、イタリア競泳チーム及び競歩チームのトレーニングキャンプの受け入れや、小中学校の児童・生徒を対象とした市内在住のパラアスリートによる講演会の開催、市内イタリア料理店を対象としたグルメラリーの開催、小中学校9校でゴールボールの体験会を実施するなどの取組を行った。市民と選手の交流機会の創出や、障害者への理解を深めるなどにより、大会開催への機運醸成を図った。
- ・狭山湖周辺を訪れる人が、より安全な散策と狭山湖周辺の新たな美しい景観を楽しめるよう、狭山湖周辺人道橋の令和3年3月供用開始に向け、詳細設計変更や市況調査、建設工事発注を行った。
- ・「水とみどりがつくるネットワーク計画」は、全庁的な計画となることから、計画策定に関係する部署を幅広くとらえ、関係部署との調整会議を行い、パブリックコメント等を実施のうえ計画案を作成した。市域全体の魅力アップを目指し、各部署の関連事業が、水とみどりの魅力と都市の賑わいをつなぐための整備に向け連携しながら進行していくこととした。
- ・狭山丘陵の自然を楽しみながら散策する「所沢市みどりのふれあいウォーク」を令和元年5月18日(土)に開催し、1,855人が参加した。

●観光客の誘致

- ・「クアオルト健康ウォーキング」を活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、「クアオルト健康ウォーキング」を県内で初めて実施し、観光と健康を融合した事業を展開した。
- ・インバウンド戦略推進事業では、市・(一社)モバイルスマートタウン推進財団・(一社)所沢市まちづくり観光協会の3者でインバウンド観光推進に関する連携協定を締結し、多言語化等、外国人にも分かりやすい観光地のPRを実施した。
- ・事業者に対して、コミュニケーション方法等に関するセミナーや意見交換会を開催し、外国人観光客の受入れ側に対する支援をするなど、受入拡大に向けた施策を実施した。
- ・観光ガイドブック(日本語版・英語版)とウォーキングガイドを最新の情報に改訂し、効果的な観光客誘致プロモーションの推進を行った。

●多彩な文化・芸術活動の推進

- ・市民文化センター改修事業はPFI手法を用いて12月までに改修工事を終え、その後令和2年4

月のリニューアルオープンに向けて開館準備業務を実施した。大ホールの天井の耐震化にあたっては既存天井を補強して大臣認定を取得（公共ホールとしては全国初）、優れた音響を維持するとともに、経年劣化やバリアフリー化の諸課題を解決しながら、大幅なコストダウンを図ることができた。

- ・「音楽のあるまちづくり」では、庁内や街中でのコンサートを計10回開催したほか、ミュージズ休館中の市民の各種文化事業を支援、また、ミュージズではさまざまなアウトリーチ事業を展開した。
- ・令和2年度秋に開催予定の「ところざわ アートの潮流」に向けては、アドバイザーやキュレーターを選定して企画検討を開始し、年度末までに参加していただける作家への出品依頼を実施した。

●文化財の保護・活用

- ・市の無形民俗文化財である「重松流祭ばやし」の指定50周年を記念したイベントを2日間にわたり、所沢まちづくりセンター中央公民館ホールで開催した。
- ・滝の城跡において、発掘調査の成果をふまえ、現地説明会を開催した。

【総 評】

各課で展開している上記の取組等により、所沢市の魅力を市内外に向けて発信することができた。また、令和2年度以降に見込まれていた国内外の観光客増加に向けた、ハード面・ソフト面の整備も、概ね順調に進んでいる。令和元年度は、「所沢ブランドの推進とまちの活性化」の実現に向けて、着実に推進したと評価できる。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業や、今後影響を受ける可能性が高い事業が多数あることから、令和2年度以降の事業の内容については十分に検討していく必要がある。

今後の方針

令和2年度以降、東京オリンピック・パラリンピックの開催や、「ところざわサクラタウン」がグランドオープンし、市内外への観光拠点への回遊性を生み出すことを目指した「所沢市観光情報・物産館」の開館が予定されているなど、観光を軸としたリーディングプロジェクトの活動は、今後大きく展開していくことが見込まれていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光振興事業や文化芸術振興事業、国際交流活動等は、「新たな生活様式」に対応し安全を確保しながら実施を検討する必要がある。観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、新型コロナウイルス感染症の動向に留意した上で、COOL JAPAN FOREST 構想や水とみどりのネットワーク計画といった、庁内において観光に関連した横断的な事業との協力を深めるとともに、狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会や西武線沿線サミットといった広域的な連携を行いながら事業を推進していく。

また、観光資源をはじめとし、特産品やプロスポーツ、文化財・伝統文化といった「所沢ブランド」を、広く国内外に向けて発信していくよう努める。さらに、ところざわサクラタウンとの連携を強化し、自然・文化・産業が調和した都市として所沢市のブランド化を一層推進する。

【SDGsへの貢献】

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう

- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公平をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう